金燈籠交差点でのぶっつけ

特集

大田原屋台まつり

彫刻や漆塗りの絢爛豪華（けんらんごうか）な9台の屋台、笛や太鼓・鐘が響く屋台囃子。さあ、ぶっつけだ！

平成29年4月15日（土）宵まつり／16日（日）本まつり 開催

15日　19：00　ぶっつけ（金燈籠交差点）
16日　10：00　出発（大田原神社前）　11：00　セレモニー式典（トコトコ大田原前）
　　18：00　ぶっつけ（金燈籠交差点）

春の大田原を彩る宴

桜が美しく舞い踊る4月の中旬。大田原市では、夏の暑さにも負けない、熱い祭り「大田原屋台まつり」が2日間にわたり開催されます。

金燈籠交差点周辺を中心とした大田原の市街地ににぎやかな祭囃子が響き渡り、繊細で美しい彫刻の施された9台の絢爛豪華な屋台が練り歩くさまは、大田原の春の風物詩です。

祭りの目玉は、なんといっても金燈籠交差点で繰り広げられる「ぶっつけ」。ぶっつけとは、お囃子の響きやリズムを競い合わせること（競演）をいいます。交差点に一堂に会した9台の屋台同士がぶつかるほどに近づいて繰り広げられるぶっつけに、祭りの勢いは一気に最高潮に達します。

今年も、上記の日程で大田原屋台まつりが開催されます。ぜひ一度、大田原の熱い春を体感してみてください。

今月は、この大田原屋台まつりについて特集します。

江戸から今へ、そして未来へ

大田原屋台まつりの起源には、大田原神社との深いかかわりがあります。

江戸時代、神社の例大祭は神聖なものであって、町人文化を代表する行事でした。

大田原の町人や商人たちは、7年に一度当番の町のみが参加する祭りに毎年参加できるよう屋台を作り、大田原神社の例大祭の付祭りとして参加したと考えられています。

これがのちに例大祭の付祭りとは別の祭りとして確立し、現在の大田原の春の祭り、『桜まつり』の一環行事となっていきます。

かつては7町内によって行われていたこの祭りは、年々にぎやかさを増し、昭和になると、武家町であった元町・大手も参加して、現在の荒町・大久保・大手・上町・栄町・下町・寺町・仲町・元町(50音順)の9町内で行われるようになりました。

使用する屋台の歴史は、県内でもユネスコ無形文化遺産に登録された鹿沼屋台に次いで古く、屋台の所有数も県内で2番目に多い数字です。

祭りの目玉である金燈籠交差点での「ぶっつけ」は、現在の実行委員長・小倉正敏氏が始めたものです。お囃子の音を『競い』合わせるぶっつけには、少し聞いただけではわからない勝敗があります。それぞれのお囃子の持つはたき方や調子が、相手のそれに狂わされたら負けなのです。この祭りに参加するために、9町内に限らず、黒羽地区や烏山市、鹿沼市、茨城県大子町、常陸大宮市などからたくさんの囃子方が集まり、自慢の演奏を披露します。

9台の屋台を引き回し、ぶっつけを行う。市内だけではなく、毎年市外からも多くの人が訪れる現在の祭りの体制が整ったのは、15年ほど前のこと。この大改革を行った小倉氏は、「わたしはこの立派な祭りに自信を持っている。」と話してくれました。

祭りを行うには、人手はもちろん、さまざまなものが必要となります。この祭りが毎年開催されているのは、参加者の熱意と、祭りを愛する心があるからです。「『地域の祭り』ではなく、市全体の祭りとして盛り上げていきたい。」小倉氏のその思いは、確実に未来へ受け継がれていくことでしょう。

①昭和初期の屋台(仲町屋台)②平成5年に行われた屋台引き回し③さまざまな衣装も魅力のひとつ④大迫力のぶっつけで祭りは最高潮に⑤大田原屋台まつりのために、囃子方も日々練習を重ねる⑥トコトコおおたわら前で開催されるセレモニー⑦この祭りを見学しようと、市内外からたくさんの人が訪れる⑧屋台を引く子どもたち⑨屋台の重さは数トン。大勢の協力がなければ動かない⑩ずらりと並んだ9町内の提灯

屋台紹介

祭りを彩る9台の屋台を今年の引き回し順に紹介します。（引用：まつり公式ホームページ）また、今年の年番町・上町筆頭渉外の矢吹さんに上町屋台について伺いました。

上町屋台
1966（昭和41）年7月28日
市指定有形文化財

年番町【上町】
かみちょう

百余年以上の歴史を刻む

上町の屋台の歴史は古く、1849（嘉永2）年の作です。

屋台の特徴ともいえる前鬼板に彫られた龍は頭部の取り外しが可能で、鹿沼にも同じ造りのものが2台あります。

この龍と、高欄（屋台の左右の手すりのような部分）の下に彫られた獅子をよく見ると、口などの一部だけ赤く塗られ、ガラスでできた瞳がはめ込まれています。

かつて、大田原藩が飢饉に陥った際、「この窮地において華美なものを製造してはならない」という指示を町人たちが聞き入れなかったため、多くの世話人が捕えられました。その世話人を返してもらう代わりに、町人たちは「もうこれ以上の装飾は施さない」と誓います。その歴史が、龍や獅子に残されているのです。

鋭い眼光を放つ龍

上町の屋台はお囃子を松葉流上町お囃子保存会が担い、毎年国際医療福祉大学からも多くの学生を招いています。

祭りの『基礎』を固めていく

今年の大田原屋台まつりは、アレンジを一切加えない『根幹』の祭りになります。この祭りはもっと良いものになる。私はそう思います。そのための基礎作りをしていきたいと考えています。

上町祭保存会 筆頭渉外
矢吹 典久さん
やぶき のりひさ

一人ひとりが担う役割

屋台を引き回す9つの自治会には、それぞれ、いくつかの決まった役割があります。

浴衣姿におそろいの黒の羽織り、カンカン帽をかぶって屋台の先を歩く祭典委員長。この祭典委員長は、9自治会の自治会長が務めます。

祭典委員長と同じく、屋台の先頭を歩くのは、花笠を背負い金棒を持つ女性。これは手古舞と呼ばれ、かつては芸者がその役を担いました。華やかな衣装に身を包み、屋台が後続することを周囲に知らせます。

そして、拍子木を打ちながら屋台の進行を決める、いわゆる進行係を木頭と呼びます。木頭の指示に従い、4名ほどの舵棒係が屋台の舵棒を引きます。

そのほかにも、屋台を引く子どもたちの世話をする子ども係や、屋台が方向転換する際に車体を浮かせるキリン（専用のジャッキ）を扱うキリン係、屋根に乗る屋根係など、たくさんの係があります。

祭典委員長と手古舞

その中でも重要な役割を担うのが、渉外と呼ばれる連絡役です。渉外は各自治会に数名おり、その代表者が筆頭渉外と呼ばれます。

9つの自治会は、毎年持ち回りで、ひとつの自治会が「年番町」となります。その年番町の筆頭渉外は、その年の屋台まつりの運営すべての最高責任者となるのです。

また、屋台を引く順番も、年番町が先頭となり、その後ろを壹（一）番町、貳（二）番町…と続きます。年番町を除く一から八番目までの順番は、くじで決まります。

屋台を持ち上げるキリン

もちろん、屋台に乗ってお囃子を演奏する囃子方も重要な役目です。それぞれの流派で受け継がれてきたお囃子で祭りを盛り上げます。

祭りはただ楽しむものではなく、それぞれが役割に責任を持つことが重要なのです。

大田原屋台まつり

特集

壹番町【大久保町】

おおくぼちょう

地上を見下ろす梅福仙人

由緒ある彫刻を有する誇り

大久保町の初代の屋台は、1860(万延元)年に建造されました。

屋根の上には、150年以上の歴史を持つ、軍配をかざした仙人の彫刻があります。

「桐に鳳凰」という栃木県内でも貴重な構図の彫り物の上に座すこの仙人は梅福仙人と呼ばれる仙人で、とても格の高い仙人です。

お囃子は神田五段囃子小瀧流小瀧若連が務めます。

大久保町屋台

貳番町【仲町】

なかまち

優美な手古舞

伝統屋台が奏でる新しい音

江戸時代末期に製作された仲町の初代屋台は戊辰戦争の際に焼失し、1919(大正8)年、現在の屋台が製作されました。

前鬼板に玉取龍、前懸魚には波千鳥の彫刻が施されています。ほかにも、牡丹・菊水の彫刻、他の町内よりも大きく造られた脇障子(屋台後方の扉)に彫られた鯉の滝登りなどが特徴です。

お囃子は、1968(昭和43)年に仲町独自に発足した廓内南流仲町粋鼓会が奏でます。

仲町屋台

参番町【元町】

もとまち

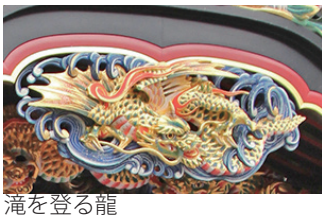
昇り龍、威風堂々

元町屋台の製作時期は江戸時代といわれており、1982(昭和57)年に益子町の関口氏から譲り受けたものです。

前鬼板には牡丹と獅子が彫られ、前懸魚には龍がいます。

そしてその龍の奥、前方の欄間には鯉がおり、立身出世を意味する中国の故事「鯉の滝登り」を表現しているといわれます。

お囃子は小松流新道囃子保存会、壇山松葉流中野内囃子保存会、大和流鷺子囃子保存会の3流派が演奏をします。


滝を登る龍

元町屋台

壽番町【荒町】

あらまち

光り輝く玉、鮮やかな彫刻

荒町の初代屋台は江戸時代後期の作で、製作年代は不明です。

黒漆塗りの柱や金箔の金具の中に、色鮮やかに染め抜かれた十二支の彫刻が取り付けられ、威光を放ちます。屋根の中央に立つ龍と玉、4枚の緞子には、那須与一と扇の的の刺繍が施されています。

お囃子は神田五段囃子荒和志流・荒和志会が奏でます。

屋根中央の玉

美しい子の彫刻

荒町屋台

特集

大田原屋台まつり

均衡のとれた繊細な彫刻

伍番町

【栄町】

さかえちょう

栄町屋台

栄町の初代屋台は、1947(昭和22)年に町内有志と大工5名によって造り上げられました。

正面の飾り戸には風神・雷神が彫られています。ほかにも、飛龍、鶴、亀、獅子などの彫刻が施されています。

現在の屋台本体・彫刻は青森県むつ市、御所車は鹿沼市で建造された合作です。

お囃子は栄町お囃子連による神田五段囃子郭内水神流が奏でます。

精巧に彫り込まれた鶴と獅子

勇ましくも雅な木彫りの冴え

六番町

【下町】

しもちょう

勇猛な龍と亀

下町の初代屋台は、記録によると1818(文政元)年に建造されたと言われます。

前鬼板には一本作りの見事な龍が据えられ、その下の前懸魚には亀の木彫りを配し、波模様の中を進む姿が描かれています。花鳥と牡丹があしらわれた飾り戸を広げて進む様は圧巻です。(下町屋台では昔ながらの「志毛町」という名前が使われます。)

お囃子は、江戸神田囃子おの流れをくむ神田五段囃子松葉流堀之内囃子会です。

下町屋台

武家町が望んだ新造屋台

大手屋台

江戸時代当時、武士の住む町であり、町人の祭りには参加していなかった大手が、現在の屋台を完成させたのは2007(平成19)年のことになります。

中央でにらみを利かせる人物は、中国の小説『水滸伝』に登場する道士・公孫勝です。

彼は別名・入雲竜とも呼ばれ、下に龍を従えます。

お囃子は、旧黒羽町中野内若連囃子方松葉流五段囃子を師とする、龍西松葉流大手お囃子保存会「囃龍會」が担います。

七番町

【大手】

おおて

龍を従える公孫勝

可憐な手古舞、美しい朱塗り

八番町

【寺町】

てらまち

艶やかな衣装をまとった手古舞

寺町の初代屋台の製作年代は不詳ですが、茨城県常陸大宮市鷲子地区に保存される屋台が初代屋台といわれます。

色鮮やかな朱塗りが施された屋台は、県内でこの屋台が唯一。現在の屋台彫刻には、1958(昭和33)年の台風で倒伏した光真寺門前の大銀杏が使用されています。

また、寺町の屋台の方向転換は手回し式キリンを用います。

お囃子は100年以上続く新小松流平林囃子方です。

寺町屋台

他では味わえない伝統文化の奥深さを体感

私は2011年にカリフォルニアから来日しました。自分もドラムを演奏していたので、すぐに日本のお囃子の魅力に惹きつけられました。お囃子を習い始めてすぐ、仲町の皆さんから大田原屋台まつりに誘っていただきました。

祭りには、日本だけの独特な雰囲気があります。通りを練り歩く美しい曲線の彫刻が施された屋台、カラフルで伝統的な法被、そしてお囃子のリズムや旋律は私を別世界へと導いてくれます。

また、この祭りに参加することで、外国人である私でも仲町の一員として受け入れられたように感じます。

大田原屋台まつりは日本文化と出会うきっかけを作ってくれました。皆さんもこの祭りに参加し、一緒に楽しんでほしいと思います。

仲町粋鼓会
アーロンさん

アーロン ショーブ
姉妹都市ウエストコビナ市からの招致で市教育委員会外国語指導助手（ALT）として2011年から本市に勤務。

身体の中で共鳴する、ふたつの緊張感

22年前の高校1年生の春。あの緊張感はいまでも忘れない。初めて乗せてもらった下町屋台。堀之内囃子会に所属する父の影響で、子どもの頃から聴いていた太鼓と笛の音。身体で覚えるとはまさにこの事。

どれだけ忙しくても屋台まつりには必ず参加。1年のスタートがこの祭りといっても過言ではない。

各町内や流派、市や町、さらには国をまたいで一体となるこの「大田原屋台まつり」は、たくさんの出会いや交流があり、絆がある。歴史ある彫刻屋台が、今年もたくさんの人たちを笑顔にしてくれる。それを屋台同士の「ぶっつけ」で感じる事ができる。22年前の初めての緊張感、いまでは下町、堀之内囃子会、そして祭りに参加している全ての人と感じる、最高に幸せな緊張感。

大田原市ふるさと大使
清水 孝宏さん

しみず たかひろ
シンガー・ソングライターとして活動。堀之内囃子会として祭りに参加。

大田原屋台まつり実行委員長
小倉 正敏さん

おぐら まさとし
栃木県歯科医師会の副会長を退いたのち、本実行委員長に就任。現仲町自治会長。

祭りを通して、人は成長する。この祭りの素晴らしさを伝えたい。

世間では、祭りを「バカ騒ぎする場」と思う方がいるかもしれませんが、私は祭りを「教育の場」だと思っています。

祭りでは、老若男女、みんなでひとつのものごとに取り組みます。その中で縦や横のつながりが生まれ、協力、団結といったものを学んでいきます。小さな子どもが、あいさつなどの礼儀や作法を知る場にもなっているのです。

小さな子どもに限らず、すべての自治会の上に立ち祭りを運営する各町内の筆頭渉外たちも、非常に立派な人間です。そういう人材を、祭りを通して育成してきたと自負しています。

特に大田原屋台まつりは、すべての自治会が「楽しい祭りにしよう」という目的で、年間を通して祭りに取り組みます。目的を同じくする者同士は自然と競争心が湧き、全員が同じ方向を向いて団結していきます。これは地域の活性化にもつながることだと私は思います。この祭りがあることで、立派なつながりができていくのです。

今年はプレDC（デスティネーション・キャンペーン）の年です。実施期間の4～6月に屋台を出す祭りは、県内で大田原のみです。ひとつでも多くの大田原の素晴らしいものをアピールしていきたいと思っています。

また、今年は6月17日（土）に宇都宮市で開催される県民の日のイベントに、大田原の屋台が参加する予定となっており、9つの自治会一丸となって張り切っていますので、大いにご期待いただければと思います。

ご協力をお願いします

大田原屋台まつりでは、金燈籠交差点でのぶっつけのほか、中央通りおよび国道461号・400号の一部が歩行者天国となるため、交通規制が実施されます。お車でお越しの方は指定された場所以外への駐車はできません。

また、市営バス市内循環線のうち【まちなか循環線】は運休となります。東野交通は路線が変更となります。

詳しい内容は大田原屋台まつり公式ホームページをご覧いただくか左記へお問い合わせください。

http://www.ohtawara.jp/yatai/index.html

問 大田原屋台まつり実施本部（大田原商工会議所内）
TEL（22）2273